

2008 年度

<p>科目名</p> <p style="text-align: center;">法と社会</p>	<p>対象学科・学年 教育教福2回生</p>	<p>担当者</p> <p style="text-align: center;">浅野 宜之</p>
<p>授業テーマ</p> <p>法についての基礎的な知識を得、これにもとづいて社会や人のあり方を考える。また、人権にかかわる法について知る</p>		
<p>授業の概要と目標</p> <p>われわれの生活は、さまざまな側面で「法」と関係している。本講義では、その中の代表的な事項に焦点を当て、「法」がいかなる形で規定しているかを概観する。これを通じて、社会のあり方を考える機会としていただきたい。</p>		
<p>評価方法</p> <p>出席状況およびレポート、ミニテスト（講義内試験）を通じて総合評価を行う。</p>		
<p>テキスト</p> <p>現代法学入門</p>	<p>著者</p> <p>伊藤正巳ほか編</p>	<p>出版社</p> <p>有斐閣</p>
<p>参考書</p> <p>デイリー六法</p>	<p>著者</p>	<p>出版社</p> <p>三省堂</p>
<p>授業スケジュール・内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 法とは何か</li> <li>2. 法の体系</li> <li>3. 裁判と法（1）</li> <li>4. 裁判と法（2）</li> <li>5. 司法制度改革：裁判員制度を焦点に</li> <li>6. 財産法の原則</li> <li>7. 取引の主体：人</li> <li>8. 取引の客体：所有権を中心に</li> <li>9. 契約</li> <li>10. 不法行為と損害賠償</li> <li>11. 親族法の原則</li> <li>12. 婚姻</li> <li>13. 子どもと法</li> <li>14. 家族と財産</li> <li>15. 相続</li> <li>16. 法と国家</li> <li>17. 人権保障と法（1）</li> <li>18. 人権保障と法（2）</li> <li>19. 刑事法の原則</li> <li>20. 現代社会と刑法</li> <li>21. 刑事手続き</li> <li>22. 刑罰と裁判</li> <li>23. 労働法の原則</li> <li>24. 労働保護法（1）</li> <li>25. 労働保護法（2）</li> <li>26. 労働団体系</li> <li>27. 現代社会の課題と法（1）</li> <li>28. 現代社会の課題と法（2）</li> <li>29. 現代社会の課題と法（3）</li> <li>30. まとめ</li> </ol>		